正しく表示されない場合は、ブラウザで表示させてください。

赤十字国際委員会 ニュースレター

ICRC

5月号 2024



国際短編映画祭「ショートショートフィルムフェスティバル & アジア」でICRCがお届けする「戦争と生きる力プログラム」も、今年で10回目となります。そこで、６月９日（日）の東京・表参道ヒルズでの会場上映に４０名様を無料招待します！先着順となっていますので、お早めにご応募ください。

また、表参道ヒルズと道を挟んで向かいにある「カフェ ル・ポミエ」さんでは、５月の赤十字運動月間と６月の映画祭を記念して、赤十字チャリティープレートを２カ月間メニューに加えていますので、是非この機会にご注文ください。売り上げの５％は日本赤十字社に寄付されます。

無料招待チケットのお申し込み

健康と美を追求した赤十字チャリティプレート



[５月８日 世界赤十字・赤新月デー：たすけあいの気持ちをいつまでも]

世界のトレンド



５月15日は国際家族デー。ICRCは武力紛争によって家族が行方不明となった子どもたちの夢を応援し続けます。

[ナイジェリア：痛みと夢を共有するこころのケアプログラム]

紛争の現場から



2024年５月９日にガザ南部のラファにICRCと日本赤十字社を含む11の赤十字社が開設した野外病院で、翌10日に産声を上げた「サナド」君。野外病院で生まれた初めての赤ちゃんです。

「私の３人目の子どもです。『サポート（support）』を意味する、『サナド（Sanad）』と名づけました。彼が私たちの支えとなってくれれば嬉しい」と母親は語ります。

「私の妊娠期間は苦難の連続でした。ハンユニスからラファ、そしてラファからアルマワシと転々と避難しています。そんな状況下では検査や検診も受けられません。私にとってもこの子にとっても十分な食料はなく、ビタミンも不足しています」

出産後も、母親の不安は尽きません。「十分食べられていないので、いつも疲労感に襲われています。帝王切開で出産したのですが、完全に体調が回復する前にどこかにまた避難しなければいけなくなるかもしれません。自分のこともこの子のことも心配でたまりません」。

戦火が広がる中でフル稼働する野外病院



スーダン：長期化する紛争の中、日常生活が救いとなる

戦闘の激化によって家を離れざるを得なかった避難者たちは、衣食住が確保できず不安定な生活を送っています。

家族と一緒に困難を生き抜くため



ハイチ：負傷者の急増により病院の機能が低下

的な支援が欠かせません。

病院の機能低下に歯止めをかける

日本人に知ってもらいたい！



地雷や不発弾などの爆発性戦争残存物に“汚染”された地域では、民間人の事故が後を断ちません。ICRCは、早稲田大学と共同で地雷探知プロジェクトを立ち上げ、日本から世界へ、地雷除去に貢献していきます。

地雷除去に革新を：ICRC・早稲田大学の地雷探知テクノロジー

その他のニュースはこちら

E-newsletter のアーカイブはこちら

© 2024 INTERNATIONAL COMMITTEE OF THE RED CROSS

配信停止をご希望の方は、お手数ですがこちらよりお手続きください。
ICRC駐日代表部のプライバシーポリシーはこちらでご確認できます。

